

スツレフローリングは内装用です。屋外には使用できません。

建築基準法等の諸条件については、事前に現場毎に建築主事にご確認ください。

■ 設計・仕様決定前に

- 土足での使用は摩耗により表面が早期に傷みます。土足使用については、お客様の責任においてご判断ください。
- 床暖房への使用・コンクリート及び根太直張りは、フローリングの形状変化(伸縮・反り・曲がり・割れ等)が大きいためお勧めしていません。
- 当社カタログ・ホームページ掲載商品の定価・寸法・形状・仕様・入り数(㎡数・枚数・本数)を予告なく変更する場合があります。設計・仕様決定及びご注文の前に最新の商品情報・在庫状況をお問合せください。
- 長さ表記が複数で記載されている(乱尺)商品は、長さ指定はお受けしていません。
- 木材は同じ商品、同じ梱包であっても、各板それぞれ独特の色の濃淡があり、目合い(節あり商品は節の状態等)も異なり全く同じものではありません。又、節あり商品は梱包や、各板一枚によって節の大きさや数(節を含まない場合もあります)は一樣ではありません。尚、カタログの写真・提出サンプルとの色味・目合いの違いもございますが、これらは木材の特徴ですので、ご了承ください。
- お客様にとって好ましくない色味・目合い(節状態)・風合い等、又、木の特性や環境の変化によって避けられない部分(反り・曲がり・割れ・伸縮等)が含まれる場合があります。その場合は目立たない場所に配置してください。又、長さに関わらず長尺物でも資源保護の観点から切り使いによる乱張り施工で、有効にご使用くださいますようお願い致します。真物(マモノ=商品サイズそのもの)使いの保証は出来ませんので、ご了承願います。
- 木材は環境に順応する特性がありますので、寸法変化は避けたい点につき、施工時の若干のサイズのバラつきは予めご了承ください。
- ご注文数量は使用面積の約10%増しを目安としてください。但し、ロス率は一定ではありません。余剰材の返品はお受けしていません。
- 木材は各板一枚一枚同じものではありません。塗装後の仕上がりも商品の本来の色合い・目合いや表面仕上げにより異なり、又、パテや埋木で補修されている部分は無垢部分とも異なります。サンプル等で試験塗装の上、事前にご確認ください。

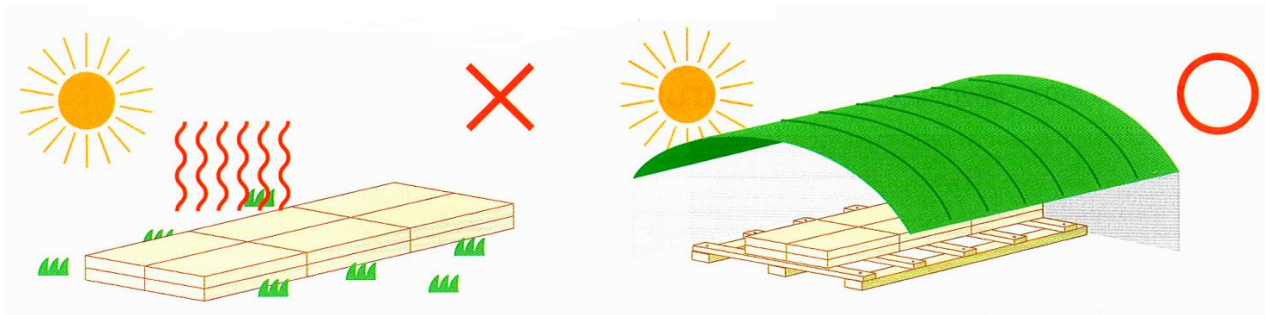
■ 荷扱い・搬入・保管方法

!注意

スツレフローリングを取り扱う際は、「とげ」や「ささくれ」等による怪我防止、商品への汚れ防止のため必ず手袋を装着してください。

- スツレフローリングは、臭いを発するもの(薬品・塗料・接着剤や塗装品の家具等)と一緒に輸送及び保管しないでください。
- 木材の性質上、施工における初期段階の伸縮を防ぐため、施工日の7日前までには商品を現場建物の中に搬入し梱包を解いて周囲の環境に順応させてください。(施工現場は玄関ドア及び全ての窓の施工・断熱工事が完了し、建物室内の湿度が50%前後に安定していることが重要です。)
- 屋外(放置)及び屋内でも過度な湿気や乾燥・雨・雪・直射日光のあたる場所・土間置きは、商品の反り・曲がりやネジレ・割れ・又、伸縮による寸法ムラやカビ・日焼けの発生の原因となりますので、避けてください。特にサーモウッドは直射日光・紫外線によって色褪せしますので、シート等で商品全面を覆い退色を防止してください。

- スツレフローリングは常温で湿度約50%程度の換気の良い床のある屋内に搬入し、直射日光を避け、平らな場所でパレット(台木)の上に必ず横置きし、シートで覆ってください。特に長尺商品は両端が極端に垂れたままの保管や立てかけて保管した場合は、商品が変形(反りや曲がり等)しやすくなりますので、避けてください。
- スツレフローリングは破損し易いので、取扱い(保管・移動・再梱包等)は慎重にお願いします。特に、木口・木端面・サネ部分・角(コーナー)部分は十分にご注意ください。尚、サーモウッドは、一般の人工乾燥木材よりも曲げ強度が低減しているため、若干割れ易く、もろい部分がありますので、更に慎重にお取扱い願います。
- 長期に渡り保管する場合は、特に前述の内容にはご注意ください。
- 保管環境により、木材製品はサイズ(巾・長さ)が変化することもあります。(長期保管下商品を施工する場合は、事前にサイズを確認し、サイズムラがあった場合は調整の上、施工してください。)

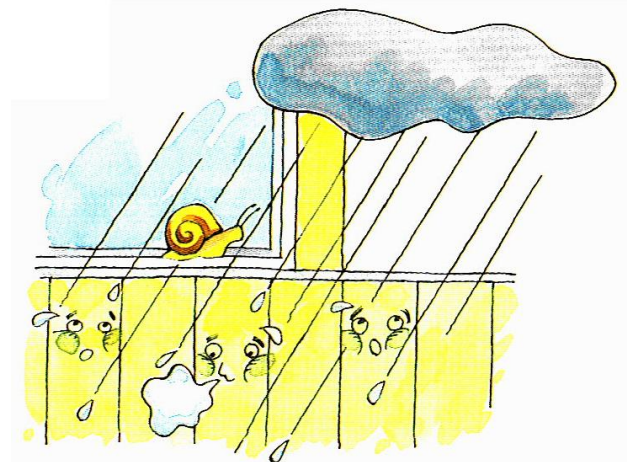
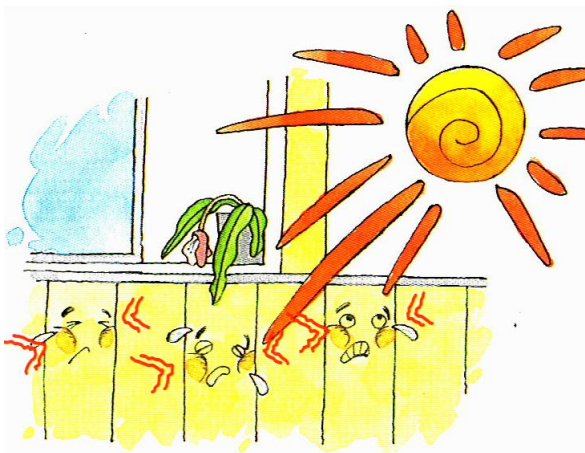


■ 湿気対策

お願い

木材製品は施工中・施工後に過度な湿気の影響を受けると、板の幅方向に「伸び(膨らみ)」、板の長さ方向に「突き上げ」が顕著に現れ、フローリング材が下地から浮き上がったり、剥がれたりすることがありますので、施工の際は特に下記の点にご注意されますようお願い致します。

- 同じ現場内で湿式工事が予定されている場合は、先に湿式工事を施工してください。その養生期間が完了し、現場内の湿度が安定してからスツレフローリングを施工してください。
- 特に多湿時期(雨期等)の施工では、現場内の湿度が安定してから施工してください。
- 多湿によるフローリング材の伸びを考慮し、サネをゆるめにして若干クリアランス(隙間)を確保しながら施工してください。



！ 注意

商品を切断・切削する際は、手袋・防塵マスクを装着して作業してください。

特にサーモウッドを切断・サンダー掛けする際は、一般の人工乾燥木材よりサーモウッドの木クズは粒子が細かいので、のど・鼻・目の保護のために防塵マスク、防塵メガネを装着してください。

■ 塗装について

- 使用する塗料メーカーの施工要領に従い確実に行ってください。
- 樹種や樹種の木目・塗布面の仕上げにより仕上がり具合が異なりますので、事前にカットサンプル等で試験塗装を行い、色や塗装状態を確認してください。
- 塗装の際、塗料に含まれる溶剤の影響でパテの表面が一時軟化する場合がありますが、溶剤が揮発した後は硬化します。
- サーモウッドは一般の人工乾燥木材より平衡含水率(*1)が低く、吸水性が低減しているため、乾燥時間が若干長くなります。

(*1)平衡含水率：木材がある一定の温度と湿度条件下で、吸湿や放湿をせず大気中の湿度と平衡に達した状態の含水率

■ 施工前の現場確認と下地施工

- フローリングを施工される前には、床下及び下地合板等が湿気を含んでおらず、十分に乾燥している事を必ず確認してください。特に1階の床を施工する場合は、基礎のコンクリートが十分に乾燥していなければなりません。
- 建築基準法施工令に準じ、必ず床下換気口を設置してください。床下の換気・乾燥が不十分な場合、施工後に商品に形状の変化(暴れ・突き上げ等)及び床鳴り等が発生する場合があります。
- 大引き・根太材は必ず(人工)乾燥材を使用し、床組み全体の水平レベルが適切か確認してください。
- フローリング施工後、床上にピアノなどの重量物を置く場合は、根太間隔を狭くするなど構造上の補強処置を施してください。
- 根太材の上に必ず厚さ12mm以上のF☆☆☆☆認定の耐水合板を下張りしてください。
伸縮対策として、合板同士は2～3mm程度のクリアランス(隙間)をあげ、段差がないよう(段差は床鳴りの原因になります)水平に施工してください。
- 湿気対策として、根太と下張り合板の間に厚さ0.1mm以上の防水シートを敷き込むとより効果的です。
- 下張り合板は継ぎ目を揃えず、千鳥状に施工してください。



■ 仮並べ

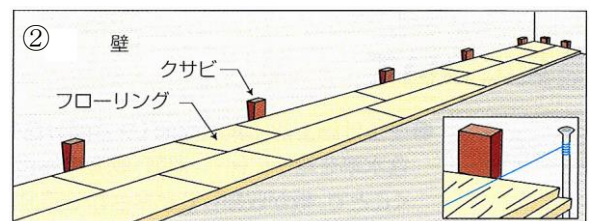
- スツレフローリングには表面・裏面の区別があります。商品の品質管理・加工・施工方法はあくまでも表面に関するもので、裏面には該当しません。当社カタログで表面をご確認の上、ご使用ください。
- 下張り合板の継ぎ手部分とフローリングの継ぎ手部分が重ならないように施工してください。
- フローリングの木口部分が根太上になるように施工してください。

- 節の状態・色味・目合いは各板同じものはありませんので、施工前にバランスをとりながら乱尺張り状(下図参照)に仮並べをし、好まない部分は取り除くか目立たない場所に配置するようにしてください。実際の施工も、自然な張り上がり商品と商品の有効活用のため乱尺張り施工が基本となります。

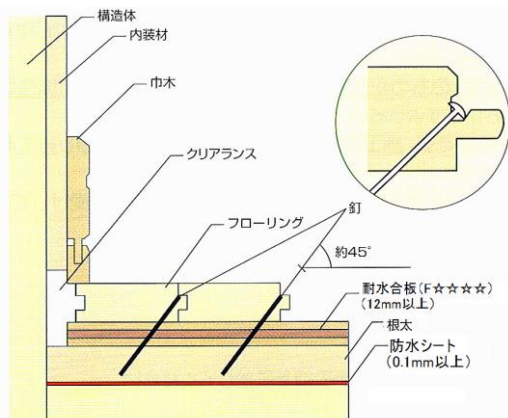


■ 張り方

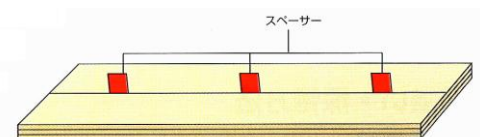
- 当社カタログ・及びホームページに表記している寸法は商品加工時の平均値のため厳密な数値は多少の誤差があります。木材の特性上、生産後、特に湿度の影響により±2mm程度、板幅・板長さが伸縮する場合がありますので、予めご了承ください。尚、この板幅の寸法ムラにより木口が合わない場合は調整しながら施工してください。
- 「接着剤・釘(フロー用スクリューネイル又はフローステーブル)併用法」で施工してください。(塗料と接着剤の相性は、事前にご確認の上、ご使用ください)。
- 接着剤は1液ウレタン樹脂系(F☆☆☆☆認定品)を使用してください(水性エマルジョン系接着剤は床鳴りが発生する場合がありますので、使用しないでください)。
- 釘(フロー用スクリューネイル又はフローステーブル)は下張り合板を貫通し、根太まで確実に打ち込み、固定してください。
- 接着剤はフローリングの裏面に全面塗布せず点付けしてください。但し、サネ合わせ部分に接着剤の塗布は厳禁です。
- サモウッドは平衡含水率がより低く、吸水性が一般の人工乾燥木材より低減しているため、接着剤の乾燥時間が若干長くかかります。
- 1列目のフローリングは凹(メス)サネ部分を壁側に向け、使用する巾木の厚さを考慮し、木のクサビなどを使用して、長辺側・短辺側共、壁面から5mm程度の等間隔にクリアランス(隙間)をとり、壁面と平行を保ちながら正確に配置することが重要です(イラスト①参照)。
- 1列施工する毎に次の列との結合部分に水系を張り、真っ直ぐに施工してください(イラスト②参照)。
- はきだし窓との納めは適度にクリアランス(隙間)をとりコーキング処理してください。フローリングがサッシに直接接触すると結露水がしみ込み反りや曲がり・シミの原因となります。



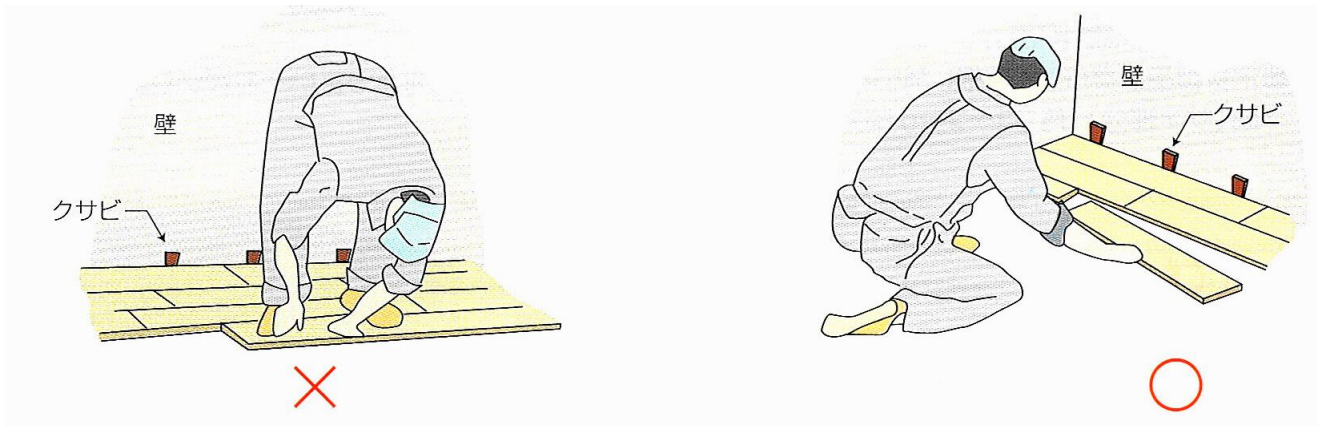
- 釘は凸(オス)サネ側から45度の角度で打ち込みます。
- 釘頭はポンチで締めてください。



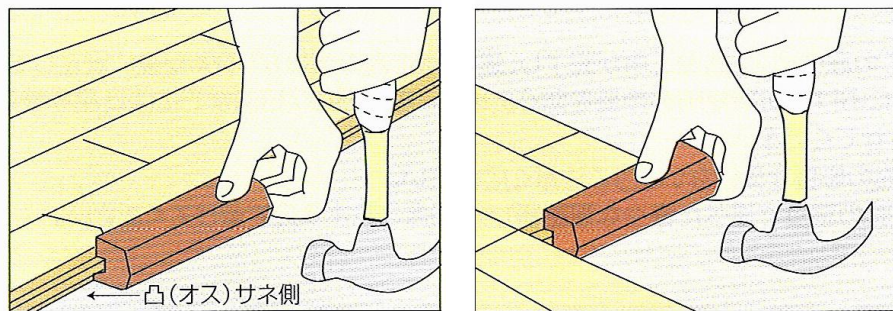
- サネ合わせ部分の強い締め込みは、湿気による膨張時に反り上がりの原因になります。施工環境にもよりますが、サネとサネは0.4mm~0.5mm厚の紙等をスペーサーとして挟み込みながら取り付けます。部分的に隙間が生じても無理に叩きこまずそのまま張り上げてください。スペーサーは全てのフローリングを張り終えてから取り外してください。



- 施工中は接着剤が完全に乾燥するまでの間、施工済みの床に上らないでください。



- 施工の際は凸(オス)サネ部分を直接ハンマーで叩くとサネが破損しますので、専用の木型を現場作成の上、使用することをお勧めします。



- 最終列も1列目同様に壁面との間に5mm程度クリアランスをとり張り納めます。フローリングを現場寸法に合わせて切断し張り納めてください。壁面に使用したクサビは最後の施工が完了してから24時間以上経過してから取り外してください。

■ 施工後の養生

- 施工後は速やかにフローリング面全てを養生シートで覆い、シートの四方は壁まで200mm以上立ち上げて留めてください。
- フローリングの表面に養生テープを直接貼らないでください。表面の品質を損なう(養生テープを剥がす際、粘着部分により目が起き上がりササクレや毛羽立ちが発生したり、塗装が剥がれたりする場合があります)恐れがあります。

* 当社は、当施工要領の掲載以外の工法で施工された場合には、その不備に対して如何なる責任を負うものではありません。

* 商品引渡し後(保管中・施工途中・施工後)の商品の割れ・反り・曲がり・割れ・伸縮・カビ・ヤニ・渋・変色等、及び諸条件による経年変化は木材の特性上避けられません。これらに関する返品・交換は承っていませんので、あらかじめご了承ください。